

第2回 ゆみたてやままつり

弓立山の頂上で、 奏でるハーモニー



弓立山、 その名の由来

弓立山はその昔、臥竜山または龍神山（※読み方については諸説あり）と呼ばれ、平安時代中期の武将、源経基が都幾山慈光寺の観音様に念願して、破邪・降魔の呪力を確認し、調伏させ、悪いものを入らないようにする、墓目の法という四方に矢を放つ儀式を行った場とされています。その際に、矢が落ちた場所は現在では矢の付く地名となっており、ときがわ町では西平にある矢所がその場所となっています。この、弓で矢を放つ儀式が行われたことから、弓立山と呼ばれるようになったとされています。



6月7日(日)、弓立山山頂にて「ゆみたてやままつり」が開催されました。標高426mと低山でありながら、関東平野や奥武蔵の山並みを一望できる弓立山。その魅力を多くの方に知って欲しいという思いから、町商工観光課、大附地区有志の方々及び観光協会の共催により「ゆみたてやままつり」が開催されました。当日は、弓立山の名前の由来といわれている弓矢による四方固めが披露され、観客から歓声があがりました。絶景が望める展望デッキでは、ときがわ町で活動中の音楽グループによる演奏会が行われ、壮大な景色に素晴らしい演奏が響き渡りました。また、当日限定で天空ブランコが設置され、子供はもちろんのこと、大人のみなさんも童心に帰って楽しんでいました。

